

総論

- ・両国関係を「戦略的パートナーシップ」に引き上げ。
- ・マレーシアは、日本の平和国家としての貢献と、更なる積極的貢献の決意を評価。

1 平和と安定への協力

- ・マレーシアは平和安全法制を含む「積極的平和主義」の取組を歓迎。
- ・防衛装備の移転に係る協定締結に向けた交渉の開始で一致。

2 自由で開かれ、安定した海洋の確保

- ・国際法に沿って海洋の安全・安定を確保する重要性を再確認。
- ・マレーシア海上法令執行庁(MMEA)庁に対する能力構築支援に謝意。

3 東方政策2.0や経済の協力を通じた未来への投資

- ・東方政策2.0のガイドライン文書を歓迎。5年で500人の研修員を受け入れる「東方政策2.0研修」を開始。
- ・質の高いインフラ整備(高効率石炭火力発電等)での協力を推進。
- ・安倍総理から新幹線採用の期待を表明。ナジブ首相は新幹線の技術や信頼性を評価し、日本の関心に留意。
- ・TPP、RCEP等の経済連携・地域統合の推進を確認。

4 文化・人的交流における協力の拡大

- ・JENESYS2015等を通じた文化・人的交流推進。
- ・マレーシア日本国際工科院(MJIIT)の強化(ASEANからの留学生への奨学金等)にコミット。

5 地域・国際社会の課題への貢献

- ・ASEAN・EAS等強化で一致。マレーシアのASEAN議長国としての取組への全面的な支援を表明。
- ・南シナ海: 航行及び上空飛行の自由、行動宣言(DOC)の履行及び行動規範(COC)の早期妥結、関係国の自製の重要性、国連海洋法条約を含む国際法の諸原則に沿った解決の重要性。
- ・テロや過激主義への対策における協力強化。マレーシアの穏健主義の取組を評価。
- ・ロヒンジャ問題: 日本はマレーシアの努力を歓迎。マレーシアは日本の貢献の意図を歓迎。
- ・北朝鮮: 核・ミサイル計画は脅威との認識共有。安保理決議の下での義務の完全な遵守を強く要請。拉致問題を含む人権状況につき、遅滞なく対応するよう強く要請。
- ・安保理改革での協力強化。日本の安保理常任理事国入り支持を改めて表明。